

「EMの微笑み」 = (今泉 智氏・米倉 金喜氏) その活動の
 現況視察に外国からの訪問があり、原発事故と復興状況への
 関心の高さが伺えます。

イギリス・フランス・ドイツ・オランダ・スイス・タイ・ベラルーシ7カ国です。

U・net災害復興支援 プロジェクト始動。対象面積32ha

堆肥の線量がEMで下がったことを伝えよう
 と、EM研究機構に電話をし、船引町で講演
 をした比嘉教授にも会いに出かけました。そ
 してNPO法人地球環境・共生ネットワーク
 (U・net)に相談するようにと指導を受け、
 この時から、田村市都路町におけるU・net
 の支援プロジェクトが始まりました。

プロジェクトは今泉さんの住んでいる自宅ログ
 ハウスの前の道路1.6kmの両サイド100mの範
 囲、合計32haにEMを散布しています。そこ
 には4軒の家があり、住民の方は船引町の仮設
 住宅に避難していて、自宅の片付けで、都路町
 に通っていました。今泉さんがEMで線量が下げ
 られる話をしたら、ぜひEMの散布をしたいと
 言ってくれたので実行することに決定しました。



EM散布の準備をする今泉さん(右)とEM研究機構の奥本さん

40基の1トントタンクで培養開始

U・netから40基の1トントタンクが到着。
 丸1日、4人がかりで仕込みを行いました。
 順調に2週間くらいでpHは3.1まで下がりました。
 40基のタンクの内、30基で二次培養。残
 りは糖蜜などの保管用などに使用。培養場所
 は、休眠していたキノコの栽培施設を借りて、
 タンクを配置。水源は建物の裏手にある川の
 沢水を使用。ポンプで1トンの水量を3〜4分
 で入水できる設備を完備。初回は水温14℃の
 時に仕込んだので、立ち上がりの温度が低かつ
 たのですが、ハウス用の加温パナールで培養室
 全体を加温したため、仕上がりは順調でした。



【上右・左】茸栽培用の施設を利用して40基のタンクで2次培養をしています。



【左】培養施設裏にある沢水から動力エンジンで揚水します。